

「あなたここにいてくれますか」フェスティバル

2017年
9月2日

Summer Festival

楽しむほどに、優しくなれる。それが -ここフェス-

■タイムスケジュール

	Warm Heart Stage (地下Yホール)	Cool Head Stage (9階国際会議室)
9:00		9:30~ オープニングトーク
10:00		10:00~11:30 映画「ムヒョン~二都物語~」
11:00	11:30~13:00 映画「でんげい~私たちの青春~」	11:30~12:30 佐藤結×李泳采 「映画『ムヒョン』と文在寅大統領」
12:00	13:00~14:00 朝鮮大学校プンムルペ セマチ	13:00~14:00 梁英聖×実川元子 差別を可視化するサッカーの試み
13:00	14:00~15:00 ピアノリサイタル 森下滋	14:00~15:00 監修・解説 申泰革 学生クイズ「突撃! 隣の外国人」
14:00	14:00~15:00 KPOPカバーダンス 「A Shabet」「チング」	15:00~16:00 立岩陽一郎×木下大資 「“ポスト真実”の時代とジャーナリズム」
15:00		16:00~17:00 八田靖史 「地方都市広報大使サミット」
16:00	17:00~18:00 くじら雑技団 with チョ・ドンヒ	17:00~19:00 映画「もうひとつの約束」
17:00	18:00~19:00 ここフェス・チョンゴル・オールスターズ	
18:00	19:00~20:00 フィナーレ・セッション	
19:00		



前売り券: <http://kokofes0902.peatix.com>

チケット: ワンデーパス(3,800円)、1プログラム(1,000円)

詳細: <https://www.facebook.com/kokofes0902/>

主催: ここフェス実行委員会

問合せ先: (有)西ヶ原字幕社 TEL: 03-3397-2235

MAIL: kokofes0902@gmail.com

収益はARIC (NPO反レイシズム情報センター)に寄付されます。

MOVIE

■映画「ムヒョン〜二都物語〜」

原題「무현 -두 도시 이야기-」(2016年・韓国、95分)
監督:チョン・インファン



2009年に他界した盧武鉉前大統領が歩んだ苦難の道を描いたドキュメンタリー映画が「ここフェス」で本邦初公開。「二都物語」の副題のとおり、もう1人のムヒョン=時事漫画家ベク・ムヒョンの生きざまと合わせて描くことで、称揚や英雄視とは異なる、人間としての盧武鉉に迫った話題作です。

■映画「もうひとつの約束」

原題「또 하나의 약속 (Anoter Family)」(2014年・韓国、115分)
監督:キム・テコン 出演:パク・チョルミン、キム・ギュリ、パク・ヒジョン

唯一の劇映画となった本作は、サムスン半導体工場で実際に起きた労働災害を映画化。半導体工場に働く娘が急性白血病で失った父が、洗浄液に発がん性物質が用いられていたことを突き止め、被害者を集め提訴に踏み切ります。巨大企業に素手で闘いを挑むかのごとき姿に、私たちは何を学ぶのだろうか。



■映画「でんげい〜私たちの青春〜」

原題「이바라키의 여름」(2015年・韓国、97分) 監督:チョン・ソンホ 出演:出演:キム・ヒャンスリ、コ・スンサ、ソ・ヌンヒャン



大阪に校舎を構える白頭学院建国高校の伝統芸術部が、朝鮮半島の伝統芸能である

“地神バルキ”を演じ、“文化部の甲子園”と称される全国高校総合文化祭に出場する姿を追ったドキュメンタリー。高校生たちが自らのルーツに思いをはせつつ、太鼓や舞に打ち込む姿に、爽やかな気持ちになれる1本です。

TALK

■対談 梁英聖×実川元子 「差別を可視化するサッカーの試み」

梁英聖は「ここフェス」が収益を寄付するARIC(NPO反レイズム情報センター)の代表であり、百田尚樹講演会騒動で心ない人々の標的となった当人。ARICはFIFA傘下のNGOの委託を受け、日本で行われるサッカーの試合での差別行動監視活動をしています。翻訳家でサッカーに造詣の深い実川元子と、スポーツが差別を乗り越える力となる可能性を語ります。



ここフェス プログラム紹介

■対談 佐藤結×李泳采 「映画『ムヒョン』と文在寅大統領」



今年5月に韓国大統領に就任した文在寅は、盧武鉉の弁護士時代からの同志であり、政治的にも直系です。映画「ムヒョン〜二都市物語〜」を通じて得られる示唆や、文在寅政権の方向性について、映画ライターの佐藤結と、恵泉女学園大学准教授の李泳采の対談で迫ります。

■学生クイズ「突撃!隣の外国人」

日本に暮らす外国籍の人々、あるいは観光で日本を訪れる人に関する基礎知識を、〇×クイズ形式で学ぶ本部企画。クイズの監修と解説は、大阪朝高から東京大学法学部に進み、現在大学院在籍中の申索革(シン・テヒョク)君。

■対談 立岩陽一郎×木下大資 「“ポスト真実”の時代とジャーナリズム」



写真・横田信哉(中日新聞のサイトから) オックスフォード英語辞典が2016年の「今年の言葉」として選んだ“post-truth”。百田尚樹講演会騒動にも通じるこうした風潮に、ジャーナリズムの現場は何を思うのか。元NHK記者で、調査報道を標榜するNPO「アイアジア」を立ち上げた立岩陽一郎に、中日新聞記者の木下大資が聞きます。マスコミ志望生必聴。

■トーク 八田靖史 「地方都市広報大使サミット」

食文化を通して韓国を紹介するフードライター八田靖史。彼は慶尚北道栄州の広報大使でもあります。同様に韓国の地方都市の広報大使となった日本人が一堂に会し、広報大使になった経緯や、お仕事、特典などを紹介しつつ、おらがくに自慢(外国人なのに)に花を咲かせます。これを聞けば、あなたも広報大使になれる?



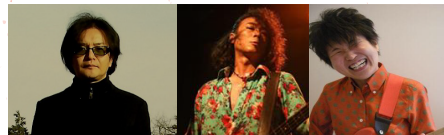
DANCE

■K-POPダンス

今や各大学にK-POPダンスのサークルがある時代。韓国に興味を持つきっかけとして、もはやダンスは欠かせないジャンルです。「ここフェス」でもDalshabetのカバーダンスチーム「A Shabet」と、武蔵大学の韓国文化交流サークル「チング」がパフォーマンスを披露してくれます。

LIVE

■ここフェス・チョンゴル・オールスター



韓国で活動する日本人ロックバンド、コブチャンチョンゴルのリズム隊、伊藤孝喜(ドラム)と明井幸次郎(ベース)が中心となって、このフェスのために結成されたバンド。千井塔子(ギター、ex.プロペラ、SPEAK)、河村博司(ギター、ex.ソウル・フラワー・ユニオン)、朴保(ギター)など豪華メンバーが集結。

■ピアノリサイタル 森下滋

鍵盤さえあれば、ジャズからクラシック、教会音楽からハードロックまで、あらゆる音楽を奏でてしまう森下滋氏は、神学徒でもあります。20代で綾戸智恵のバックバンドを務めたり、NHK教育放送の子供向け番組に音楽監督、ピアノのお兄さんとして参加したりと、縦横無尽の活躍を見せる彼が「ここフェス」に登場。

■朝鮮大学校プンムルペ セマチ

学校法人朝鮮学園が運営する全国60数校の朝鮮学校、その頂点に当たる朝鮮大学校で朝鮮半島の伝統音楽を演奏するサークル、セマチ。「ここフェス」ではケンガリ、チャンゴなど4つの打楽器で演奏するサムルノリというスタイルで一席やってくれます。ナビゲーターは伊藤孝喜とサムルノリ経験者の清水達生。

※풍물패(農楽隊の一種)

■くじら雑技団 with チョ・ドンヒ

韓国ロックを演奏するロックバンド。韓国の音楽評論家による名盤ベスト100アンケートで上位に選ばれる名曲の数々をレパートリーとし、2013年に始めた月例ライブは32回を数えます。この日は韓国からシンガーソングライターのチョ・ドンヒも駆けつけ、ゲスト出演してくれます。その他ゲストも多数。



FOOD

■Salon de VAMP

高円寺に店を構えて15年のロックバーSalon de VAMPは、知る人ぞ知る韓国ロックのメッカ。今では噂を聞きつけた韓国のミュージシャンが来店することも。フード面でもキムジャンイベントやチメクパーティーを開催。阿波踊り、高円寺フェスといった催しも出店するVAMPが「ここフェス」にも参加してくれます。